

である。これらの属の分類については検討する必要があるが、それはセリ科全体の分類体系と関連するのでなかなか難しい問題である。*Angelica* と *Peucedanum* とを認めるならツクシゼリは後者に属することになる。

屋久島のツクシゼリはかつて *Cnidium* の新種として報告されたことがあるが、現在はツクシゼリに合一されてしまっている。しかし全体が小さいというだけでなく、小散形花序の小包葉片は全縁のものもあるが、多くは線形の裂片に2-3裂し、尖った明らかな萼片を持ち(図1, a), 果実は小さく長さ2mmほどで、分果の両側の翼もごく狭い(図2, a), ツクシゼリは小包葉片は裂けず(図1, b), 果実は大きい(図2, b)。ツクシゼリには時に丈が小さくなり、高さ5cmほどになるものもあり、外観は屋久島のものに似ているが、小包葉の形は変わらない。両者は著しく異なるのでそれぞれ別の種類として認めるべきである。

東大の標本室には正宗巖敬氏が採集した屋久島の標本があり(Masamune, Aug. 31, 1926), 2個体が貼られている。1つは全体が小さなヤクシマツクシゼリであるが、もう1つは高さ15cmほどあり小包葉の形からもツクシゼリそのものである。この標本がいままで屋久島のものはツクシゼリと異ならないという根拠とされていたと思われるが、現在まで屋久島ではこの標本以外にツクシゼリは見つかっていない。正宗氏が屋久島のものを新種

とする際、比較のために九州本土の標本を入手し、屋久島の標本と一緒に貼ったのではないかと推測される。この標本は屋久島産から除外すべきである。

Peucedanum longeradiatum (Maxim.) Yamazaki, comb. nov.

Selinum longeradiatum Maxim. in Bull. Acad. Sci. St.-Pet. 31: 50 (1886).

Cnidium longeradiatum (Maxim.) Yabe, Rev. Umble. Jap.: 61 (1902).

Angelica longeradiatum (Maxim.) Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo 51: 659 (1937).

Jap. name. Tsukushizeri.

Distr. Kyushu. In sunny meadows on mountains, more or less dry places at altitudes of 900-1600m.

Peucedanum yakushimense (Masamune et Ohwi) Yamazaki, comb. nov.

Cnidium yakushimense Masamune et Ohwi in Act. Phytotax. Geobot. 4: 66 (1935).

Angelica longeradiatum (Maxim.) Kitagawa var. *yakushimense* (Masamune et Ohwi) Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo 51: 659 (1937).

Jap. name. Yakushima-tsukushizeri, Hina-bōfū.

Distr. Kyushu, Isl. Yaku. On rocks on mountains at altitudes of 1600-1800m.

(東京大学理学部附属植物園)

タイワンシンラン琉球に分布 (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: *Lysionotus warleyensis* Willmott newly found in the Ryukyus

沖縄本島中部の八重岳近くで、琉球では今まで知られなかったシンラン属の植物が発見された(Fig. 1)。調べてみると中国中部、南部から台湾に広く分布するタイワンシンラン *Lysionotus warleyensis* Willmott であることがわかった。発見者の沢岷安喜氏によれば、高さ400mほどの山頂近くの岩地のコケの中に這っていたという。現地はアメリカ軍の演習場で入れなかったが、最近入れようになった場所で、幾つかの面白い分布の

植物が見つかったという。琉球のタイワンシンランは葉の幅が広く、一見台湾の紅頭嶼の *L. ikedae* Hatusima に似るが鋸歯が尖るので異なる。

Lysionotus warleyensis はシンラン *L. pauciflora* Maxim. に近い種類で、以前は台湾の植物にこの学名が使われていたが、最近中国でも台湾でも両者を同一種類としてしまっている。しかし両者は葉の形が異なる。シンランは葉が細く、基部は次第に葉柄に流れる。台湾、中国のものは一



Fig. 1. *Lysionotus apicidens* (*L. warleyensis*). Isl. Okinawa, near Yaedake (Photo. by Yamazaki).

般に葉の幅が広く、基部は円形または鈍形で、葉柄に流れないか、僅かに流れる。中国のものは葉形に変化が多いが、シシンランのように葉の基部が次第に葉柄に流れるものは見当たらない。別種として扱われるべきものであろう。別種として扱う場合、この種類の最も早い学名は広東から報告された *Aeschynanthus apicidens* Hance であるから、これを組変えた学名を使わなければならない。

Lysionotus apicidens (Hance) Yamazaki, comb. nov.

Aeschynanthus apicidens Hance in J. Bot. 21: 167 (1883).

Lysionotus warleyensis Willmott in Gard. Chron. ser. 3, 45: 125 (1913).

Lysionotus pauciflorus auct. non Maxim.: Kao et Devol in Fl. Taiwan 4: 679 (1978); W. T. Wang in Fl. Reip. Pop. Sinic. 69: 550 (1990).

Ryukyu: Isl. Okinawa, near Yaedake 420m, on rocks (A. Takushi, Sept. 19, 1993), new to the Ryukyus.

Lysionotus apicidens in China differs from *L. pauciflorus* in Japan as follows:

A. Leaves elliptic, oblong or oblanceolate, acute to obtuse at base, not or slightly attenuate into petiole..... *L. apicidens*

A. Leaves oblanceolate, acute at base, gradually attenuate into petiole. *L. pauciflora*

(東京大学理学部附属植物園)